

## イベントによる震災復興支援 ～「岩手県大槌町合同慰霊祭」、「東北六魂祭」の実施を通じて～

遠藤 秀（㈱電通プロモーション事業局 スペースブランディング室）

我々イベント業界に携わる者として被災地に対し何が出来るか。  
イベントプロフェッショナルとしての支援の形を2つの実施事例を通じてレポート。

### 1. 「大槌町東日本大震災犠牲者合同慰霊祭」

甚大なる被害を受けた人口15000名の漁業の町「大槌町」。

（死亡約550名、行方不明者約800名、家屋被害全体の約80%）

震災より100日目となる6月18日、犠牲者家族にとって「区切り」となり、  
「明日への第一歩」を刻むための慰霊祭を実施。

約6000名の町民が参加し、犠牲になられた方々へ別れを告げた。

電通は14年前に大槌町で開催された「全国豊かな海づくり大会」を担当。

その縁で当時の町の担当者（現在町長代理）より協力要請を受け、当時の担当スタッフが  
集結し、慰霊祭実施運営をボランティアとして全面的にサポートすることとなった。

1か月の準備期間の内、約半分近くを大槌町で過ごし、多くの犠牲を出した町役場の方々の  
手となり足となり、演出進行、会場計画、輸送を含む運営全般、プレス対応を担当。

### 慰霊祭を通じた貢献

- ・遺族の方々をはじめ多くの参列者から犠牲者を敬った立派な慰霊祭であったとの評価を多数いただいた。
- ・慰霊祭会場である仮設大型テントの後利用（町民参加プログラムの実施）として、ボランティアセンター、NPOとの連携により町民対象のイベントを1週間に渡って実施。  
電通は最終日に被災者の団結力向上を目的に「運動会」を実施。

町長はじめ町職員の多くの方々が行方不明という被害を受けた大槌町の行政を支援する  
「合同慰霊祭」という今回の活動を通じ、イベント本来が持つ力の本質を発表する。

### 2. 「東北六魂祭 ～東北の6大祭がここに集結～」

このイベントの目的は2つ。

ひとつは、東北6県の祭が一つとなり、犠牲者を弔い、そして被災地自らが中心となって  
復興の狼煙を掲げること。

そして、東北六魂祭を通じて東北の元気な姿を国内外に発信し、本祭りをはじめ観光客の流入をはかること。

電通は仙台市および商工会議所と共に、東北を代表する祭団体への折衝をはかり、史上初となる、ねぶた祭り（青森市）、竿燈祭り（秋田市）、花笠踊り（山形市）、さんさ踊り（盛岡市）、七夕祭り（仙台市）、わらじ祭り（福島市）が一同に介しパレードする祭り企画をプロデュース。

同時に協賛企業セールスも担当し、60社の協賛を募った。

開催記者発表以降、イベントに対する全国的な反響は大きく、主要な旅行会社はパッケージツアーを組み、仙台周辺の宿泊施設は満室、新幹線も増便をするなど、観光ビジネスをはじめ地域経済へも大きな効果をもたらす一大イベントとなった。

（当初2日で10万人の来場予測であったが、それを大きく上回る約37万人の来場となった）

今後の展望（まとめ）

慰霊祭・祭りと規模・形態・目的は異なるが、被災者の心を癒したり、元気づけたりと「イベント」だからこそその支援活動になったのではないかと考える。

この二つの活動は、普段の業務においてややもすると忘れがちなイベント本来がもつ「大きな力」を思い起こすものであった。

場を共有する全ての人の思いをひとつにする。強い絆を生み出し、その絆がその後も継続される。このイベントの持つ本質について、この活動を通じて考察する。

この絆は、制作担当者としての私個人にも刻まれた。

2つのイベントを通じ構築できた関係性を活かし、様々なカタチでの復興支援活動へと繋げていきたいと強く思っている。

一周忌、慰霊碑、新しい街づくりなど、我々イベント業界が積極的に関与出来る復興支援の場はこれからさらに増えていく。イベント業界の皆様はこの口頭発表の場を通じて、その思いを伝えていきたい。

以上